No.887号 2006年10月1日発行 毎月1日1日発行 48年4月20日第3種郵便物認可 ISSN0287-2218

美術手帖

10
2006
Vol.58
No.887
BT

http://book.bijutsu.co.jp/

特集

入門★中国美術

速報！上海ビエンナーレ2006

現地取材：北京・上海のアートシーン

「胡同のひまわり」張暁剛（ジャン・シャオガン）を雲南に訪ねる

美大リポート・留学情報

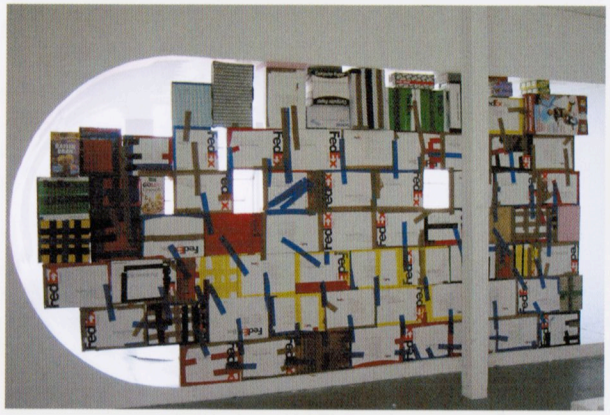
「若冲、雪舟、中国絵画」対談：山下裕二×板倉聖哲

中国アート・バブルの真相

「エッセンシャル・ペインティング」展

奈良美智＋graf「A to Z」リポート

篠原有司男「GYUCAHNG EXPLOSION! PROJECT」



「5つの生息地」プロジェクト会場風景より
上左――スカイラー・ハスカード　無題（ニュー・ラングトン・アーツ）　2006
上右――サラ・フィッツサイモンズ　テント　2006
下――キム・ショーエンスタッド　Can Control 2006

Photo Rika Hiro

ギャラリーを24時間占拠する“work in progress”

劇場も併設するニュー・ラングトン・アーツ（ロサンジェルス）では、30周年を記念して、「5つの生息地――ラングトン占拠」というプロジェクトが行われた。5人のキュレーターが、それぞれ5人、計25人のアーティストを選出。建築家キュー・チェがデザインしたギャラリー内ブースで、一週間ずつワーク・イン・プログレス（公開制作・発表）を行った。

8月1日から5日まではアーティストのジョン・バルデッサリによるキュレーションだ。彼の教えるUCLAの卒業生を中心に、作家たちは五人五様のアプローチでギャラリーに居住した。占拠という点でいえば、個人的なスペースを演出したスカイラー・ハスカードとサラ・フィッツサイモンズのインスタレーションがもっともしっくりくる。ゴミや廉価な素材を積み重ねた造形にファンタジーを加えた作品を得意とするハスカードは、今回、机や壁などを組み立てたが、ピンナップの間にブランドロゴやビニールテープが消費文化を主張する、大人のプレイグラウンドといった趣の作品。逆に、外界を持ち込んだのがキム・ショーエンスタッドだ。多くのアーティストやキュレーターがメールで指定した色や形、言葉などに基づき、地元のアーティストたちがパネルにグラフィティを施す。そこに、あらかじめテーピングしていた線描状の風景が浮かぶ仕組みだ。前景と後景、ポジとネガ、アーティスト／プロデューサーと参加者が曖昧に入り組むことで、自身の制御が利かない環境を「生息地」としていた。

「5つの生息地――ラングトン占拠」プロジェクト
Five Habitats: Squatting at Langton
7月11日―8月12日
ニュー・ラングトン・アーツ
www.newlangtonarts.org

◎ ひろ・りか［ゲティー・リサーチ・インスティテュート、コレクション・ディベロプメント部門スタッフ］

〈宇宙の驚異〉をとらえ直すアート

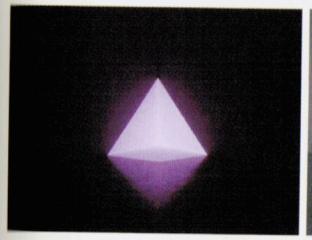
グラフィティやタギングをはじめストリートアートを一堂に集めた「ビューティフル・ルーザーズ」展など、ポピュラー／サブカルチャーとアートをめぐるテーマに熱心に取り組んできたヤーバ・ブエナ・センター。最新展は、アーティスト22人による、ニューエイジやトランス、オプティカルな現象とアートの関係に焦点をあてた「コズミック・ワンダー」展だ。

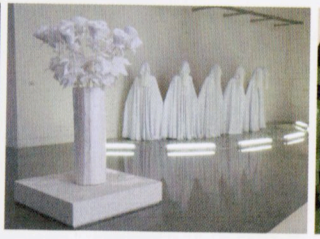
同様の企画としてLAMOCAでの「エクスタシー」展が思い浮かぶが、あちらは確信犯的にドラッグへの言及が顕著だった。対し、サンフランシスコの土地柄だろうか、ヒッピー的コミューンを思わせるインスタレーション（マーク・ボズウィック、ハンナ・フシハラ・アロンとデヴィッド・アロンなど）やサイケデリックな造形に加え、瞑想や精神世界への関わり、静と聖（俗の中に見出される聖も含め）、それらを求め施行される儀式を象徴するような純白の作品（前田征紀やテレンス・コー）などがちりばめられた。その中に、ジェームス・タレルのミニマルで観念的な《アルタ（ピンク）》や草間彌生の増殖するイメージのシリーズなどが入ることによって、1960～70年代の美学と現在の表現が折り重なって見えてくる。今でこそ60～70年代の再解釈が進められているが、当時、周囲の反応は案外冷ややかで誤認も多かったのかもしれない。既に互いに共作などの関係をもつアーティストも多く、主張やスタイルを共有する本展自体が、一種のカルチュラル・マップ＝コスモスを具現しているようであり、はやりのキーワードに潜む深遠な拡がりを探る必要がありそうだ。

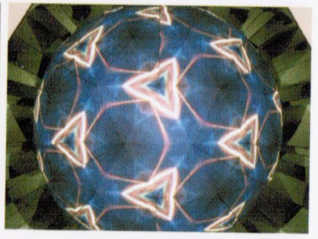
「コズミック・ワンダー」展
Cosmic Wonder
7月14日―11月5日
ヤーバ・ブエナ・センター・フォー・ジ・アーツ
www.ybca.org/b_ybca.html

このページすべて――「コズミック・ワンダー」展の展示より
上左――ハンナ・フシハラ・アロン、デヴィッド・アロン《光と音の庭園における浄化構造》（2006／手前）、エリック・パーカー《スペース・チェース》（2006／奥左）、ヒシャム・バルーチャ《高く登れ》（2006／奥中・右）
上右――前田征紀《Eclipse/ ǝǝqilɔƎ Weeping Rock》（2006／手前）、ダグ・エイケン《new opposition II》（2001／奥）
下左―ジェームス・タレル　アルタ（ピンク）1968
下中――デボラ・ワーナー《彼女のコズミックな香水》（2005／手前）、テレンス・コー《私の死、私の死（死したコーの天使たち）》（2005／奥）
下右――アラ・ピーターソン＆ジム・ドレイン　巨大ビデオ万華鏡　2003-06

アーリック・ローパーによる「コズミック・ワンダー」展ポスター







Installation Photo Ira Schrank　Courtesy Yerba Buena Center for the Arts